

**創薬基盤推進研究事業 研究開発課題  
事後評価報告書**

事業名（年度）	創薬基盤推進研究事業（令和3年度～令和4年度）
研究開発課題名	Clostridium ramosumを標的とした粘膜ワクチンの作用機序解明
代表機関名	公立大学法人大阪 大阪公立大学
研究開発代表者名	植松 智

総合評価：良い

**【評価コメント】**

肥満、NASHなどの代謝性疾患に関わる腸内細菌 *C. ramosum* を制御する粘膜ワクチンの有用性検証を、研究期間内に実施可能な研究開発項目を優先して行い、肥満改善効果やNASH病態軽減効果の可能性を示した。このことは、*C. ramosum* の代謝性疾患発症メカニズムを検討する上でも意義があり、さらに、肥満症・NASH治療ワクチンとしての臨床応用展開が期待できる成果である。

ただし、粘膜ワクチンの臨床応用に向けて、安全性、ワクチン効果の持続性や病態進行後の治療効果についてもさらに検証を進めていただきたい。また、臨床応用に向けて重要であるワクチン抗原の候補配列を特定し、粘膜ワクチンの標的が *C. ramosum* であることを解明することを望む。今後、代謝性疾患の発症に多種多様な因子が関与する可能性も考慮し、*C. ramosum* による病態発症メカニズムをさらに解明するとともに、粘膜ワクチンの治療コンセプトが検証されることを期待する。

以上